心温かい人々が暮らす町

人権作文に学ぶ

スマホやパソコンなど、今や私たちの生活に欠かすことのできないインターネット。そんなインターネットと人権について中学生の作文から考えてみましょう。

「ネットに書き込まれている悪口」

近年、インターネット上で、特定の人への悪口が増えているように思える。芸能人の方もこの問題に悩まされている事例が多数ある。私の考えは、ある事柄に対して、自分の意見を持つことはいいことだと思うが、この意見を通すために、特定の人を傷つけてはいけないと思う。今、ネットへの悪口が問題になっているということは、たくさんの人がしてはいけないことだと自覚しているからではないだろうか。ではなぜ、ネットへの悪口の書き込みが減らないのだろうか。私なりの意見を３つ述べたいと思う。

１つめは、ネットでは自分の名前を匿名にできるからだと思う。自分の名前を隠すことで、誹謗中傷をしても罪悪感が少なくなると思うからだ。実際に SNS のコメント欄を見てみると、ほぼ全員が匿名でコメントをしていることから、匿名であることが１つの原因なのではないかと考える。

２つめは、人は自分と同じ意見を持った人に親近感を持ち、エスカレートしていくからだと思う。ネット上にはたくさん意見があり、自分と同じ意見を持っている人を見つけると、自分は間違っていないんだと思ってしまい、客観的に自分を見られなくなるから誹謗中傷してしまうと思う。

３つめは、誹謗中傷に気付かず、自分はいいことをしていると、正義感を持つ人がいるからだと思う。今まで正しいことをしてきたと思っていたのに、してはいけないことだと言われても混乱してしまう。そしてまた、知らない間に誹謗中傷をしていると思う。

では、誹謗中傷された人の気持ちはどうでしょうか。自分の悪口や嫌なことがネット上に永遠に残り、どうしようもない思いをすることになる。また、相談しても対処できず、消えない誹謗中傷と心の傷を一生背負い生きていくことになる。傷つけた人は忘れると思うが、傷ついた人は忘れないと思う。このようなことが起こらないために大切なことは、自分の言動１つで人を傷つけ、悲しませるかもしれないという自覚を持つことだと思う。ネット上で誹謗中傷をしている人は、言葉の重みを知らず、責任を感じていない。自分が楽しくなるために他人を傷つけることは、絶対に許されないことだと思う。また、誹謗中傷を許さない社会になってほしいと思う。そのために、人ががんばっている時にまわりにいる人があたたかい言葉をかけて、人と人とのつながりを増やし、声をかけてあげることが必要だと思う。

最後に私の願いは、誰ひとり傷つくことなく、コミュニケーションがとれ、自由に自分の意見を発信できるようになることだ。今まで伝えたかったことは、ネット社会において、自由の限度を超えてしまっているのではないかということだ。これからもインターネットが発達していくと思うが、誰もが傷つくことなく、楽しく、自由な社会になってほしいと思う。

誹謗中傷（相手への攻撃を目的とした発言）と、批判的意見（建設的な議論を目的とした発言）は違います。いかなる場合でも誹謗中傷は許されません。たとえ匿名であっても、常に自分の発言に対する責任と他者への敬意を忘れないようにしましょう。

町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。
「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことがまさに、“にぎやかそ”美波町まちづくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。

ウミガメ News Letter No.27

ウミガメの健康管理

生き物を飼育する現場では、体重はその健康状態を知る上で欠かせない情報です。私たちの健康診断で体重測定を行う事と同じ理由です。問題なく成長しているかの確認、毎日の餌、栄養剤や薬の量を決める為など、体重は重要な情報なのです。カレッタでは、ウミガメやその他のカメ類の飼育をしています。簡単に体重計に乗せられる大きさのカメでは問題ありません。しかし、大きなウミガメの場合は、体重計に乗せるだけでも大変な作業になりますし、100 キロを超える重さを測れる体重計もなかなかありません。昨年 73 歳になった浜太郎も２年前に体重測定をしたところ、体重計の目盛りを振り切ってしまい、正確な体重が判らない状態でした。一方、リニューアル工事が進む中で、飼育しているウミガメの移動を考える必要が出てきました。大きな体のウミガメを人力で持ち上げて水槽から出す作業は大変に危険です。そこで工事現場で使用する鉄製パイプの三脚にチェーンブロックという滑車を用いて吊り上げる方法を採用しました。その時、同時に体重も測ることが出来るのではないかと考え、簡単に取り扱える大きさで１トンまで測れる吊下げ秤を用意し、これらを組み合わせてウミガメの体重測定を行いました。最初の体重測定は浜太郎で、体重は 125 キロであることが判りました。一方で、吊上げるまでの準備作業を簡単にする事や、吊下げた時のウミガメの負担を少なくするなどの工夫を引き続き考える必要があることも判りました。（館長：平手康市）

うみがめについての質問をお送りください。お答えします!
〒 779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐浦 369 うみがめ博物館カレッタ「質問係」

応募フォーム

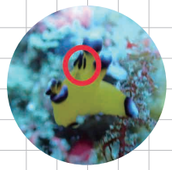
Question カメの他に甲羅がある動物はいますか?

Answer カメの甲羅は、体表の鱗板（ツメの様な物）と体内の骨格が一体となって出来ていて、同じ構造の甲羅を持つ動物は他にいません。体が硬いイメージのワニやアルマジロ、殻を持つエビやカニの仲間、貝類やウニ類とは全く異なる構造なのです。

みなみの海のいきもの図鑑

太平洋に面する美波町では多くの生き物たちが生息しています。このコーナーでは実際に撮影してきたリアルな写真と共にいろんな生き物たちをご紹介します!

ウデフリツノザヤウミウシ



このウミウシ、何かに似ていると思いませんか?

実はダイバーの間ではピカチュウと呼ばれ大変人気があるウミウシです。全体的に山吹色で、動くと突起がゆらゆら揺れる姿も可愛らしく、これも人気のポイントです。背中にあるフサフサと花が咲いているように見える部分（右上写真：〇で囲んだところ）は二次鰓といい、体表の皮膚が変化した呼吸をする器官です。冬に水深 10 ～ 15 mの岩礁域でよく見られ、岩や海藻に付着しているコケムシの仲間ばかりを食べて暮らしています。（ダイバー：長楽美保）